



[ 男女共同参画社会の実現をめざす情報誌 ]

特集 夫婦で何と呼び合っていますか？

たかが**呼び名**  
されど**呼び名**

トピックス

さんかくプラン

～岡山市男女共同参画社会の形成の  
促進に関する基本計画～

岡山市男女共同参画推進週間

OKAYAMA

2002.9

vol. 23

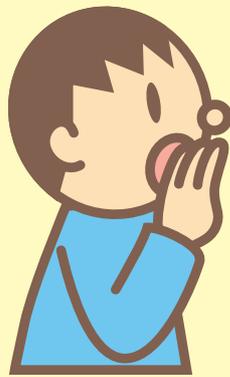
DUO

[デュオ]



岡山市

特集

たかが**呼び名** されど**呼び名**

夫婦で何と  
呼び合っ  
ていますか？



## 「パパ」「ママ」は新婚の匂いが抜けた証拠

我が家は子どもの前でも夫婦二人きりでも「パパ」「ママ」と呼び合っています。

私の父ではないのに配偶者を「パパ」とか「お父さん」と呼ぶのは、考えてみれば「？」なのですが、私はその響きの中に家庭のぬくもりとか静かな愛情を感じます。これって変でしょうか？

呼び名は、出会い方(恋愛、お見合い、紹介)や二人が重ねてきた時の長さによって随分違うと思うんです。結婚前は「ヤマダ〜!」なんて呼んでいたのに、夫婦になると急に「タロウさん」という訳にもいかないですしね…。照れもありますし。

でも種類だけ、たいていの人がOKの言葉があると思います。それが「お父さん」「お母さん」。夫婦をしっかりつなぎとめてくれる絆のような呼び方だな、と私は感じます。

一概にはいえませんが、この呼び方が馴染んできた頃「新婚の匂い」が消えて、家族という単位の絆が強まるように思います。

[30代・女性]



## 私はあなたの「お母さん」ではないと抗議

娘時代のお茶の先生が「だんなさん」と呼ぶのにあこがれ、夫をそう呼んできました。私はゆかしくて良いと満足していましたが、夫は人と違う呼び名が恥ずかしくて嫌だったそうです。

子どもが生まれると、夫は安心して世の通例に従い「お母さん」と呼びましたが、私は「お父さん」と呼んだことはありません。長年外国人に日本語を教えてきて、彼らが「誰のお母さんですか？」と混乱する姿を見て、考えさせられたからです。

子どもが巣立って夫婦二人きりになってからは、役割重視の名残りであるこの呼び方を止めてもらおうと決心し、「私はあなたのお母さんではない」と毎回強く抗議してきました。今ここで軌道修正しておかないと、孫が生まれたら「おばあちゃん」と呼ばれて取り返しがつかなくなってしまうもの。

一方、相手を尊敬する気持ちがあれば、呼び名なんて単なる記号でどうでもいい、と思っている夫は面倒くさくなったのか、私の要求どおり「あんた」と呼ぶようになりました。

もう少し早く目覚めていれば、個人として認め合って「さん」と呼び合えたのに残念。

[50代・女性]

## 結婚して半世紀

## 一度、名前で呼んでほしかった

農家に嫁ぎ 47 年。時代的にも妻は夫に従うべきという絶対服従の気運が強く「オイ」と呼ばれるのが一般的でした。嫁はよそ者ですし、夫に口ごたえするなど考えられませんでした。今もそれは続いています。

子どもが生まれてからは「オイ」に「お母さん」が加わり、以来この二つの呼び名です。

私は夫を「お父さん」が名前で「さん」と呼んでいます。

呼び名のことは話し合ったこともないですし、特に夫は考えたこともないと思います。

振り返ってみると、50 年近い日常生活の中で、私は一度も名前で呼ばれたことはありません。日常的にというのではなく、一度でいいので名前で呼んで「私自身」を認めて欲しかった。嫁や妻、母でなく…。今となってはあきらめています。

〔 60 代・女性 〕

## 夫婦は互いに名前

## 子どもは「お父さん、お母さん」

結婚前から「リカ」と呼び捨て。父が母を名前で呼んでいたことや、兄弟や従兄弟が互いに呼び捨てだったので、「身内の証 = 呼び捨て」という意識が強くあります。

自分は名前の一部に“さん”を付けて「ケンさん」と呼ばれています。特にこれといった感想はありません。時間をかけて自然に定着したものですし…。

とはいえ、配偶者からは何度か「私は“さん”付けで呼んでいるのに、呼び捨てにされるのは不公平。“リカさん”と呼んで」とリクエストされました。偉ぶっている訳ではなく、親しみを込めての呼び捨てだったので「とらえ方が違うんだなあ」と新鮮な驚きを感じました。もともと無意識に呼んでしまうので、なかなか希望には添えませんが。

2 歳の子どもは「お父さん」「お母さん」と呼びます。夫婦が名前で呼んでいても、子どもへの影響はないようです。今後も呼び名を変える必要はないと思うのですが「おい」とか「お母さん」と呼んでいる家庭を見ると、自分たちは家庭人として未成熟なのかな、と思うこともあります。

〔 30 代・男性 〕

## 家庭では…

日頃家庭で配偶者を呼ぶ時、何気なく使っている「呼び名」。

自分は満足でも、配偶者はそうでないかもしれませんね。

## 「お母さん」と呼んで欲しいが「オイ」「あほう」「オメエ」

4 歳年上の主人からは「オイ」「あほう」「オメエ」と呼ばれています。22 年間、日々こんな調子です。主人は根っからの亭主関白で、家庭での権力は絶大。プライドも高く、何事にも自分の考えを押し通し、私の口出しは無用という感じです。

呼び名についても「これが我が家のスタイルであって、今後も変えるつもりはない」と言っており、私は現状を黙認するしかありません。結婚生活が長くなると次第にこれが当たり前となり、普段は疑問にも感じていませんが…。

子どもが小学生になる頃、子どもの前では「お母さん」と呼んで欲しいと思ったこともあります。こんな私の思いはとて言えません。今も昔も夫には黙って従うものだと思っていますから。

〔 40 代・女性 〕

## 子どもの前と夫婦二人の時で使い分けしている

子どもが誕生する前までは、「ノビ」ちゃん」と名前で呼び合っていました。

しかし、不思議なことに子どもができたその日から、子どもをはさんで会話する時は「パパ」「ママ」に変化。無意識のうちに父親、母親という新たな役割に適する呼び名を使い始めたことに、我ながら驚きました。

夫婦で会話する時は、相変わらず「ノビ」ちゃん」です。でも、子どもが真似て同じように呼ぶことがあり、「う～ん」となることもあります。

〔 30 代・男性 〕



## 女性の意見

一貫して「主人」

でも込める気持ちは変化

結婚以来ずっと「主人」主従関係や上下関係ではなく「世帯主」とか「戸籍筆頭者」を指す言葉として使い始めました。

とはいえ、専業主婦時代は「食べさせてもらっている」という気持ちが強かったので「ご主人様」という尊敬と感謝の念を込めて呼んでいました。その後、子育てを終え、仕事を持ってからは、気持ち的にも対等になり、単に夫を指す記号に変化しました。夫はそんな私の気持ちの変化には気づいていないと思いますが。

〔50代・女性〕



## 女性の意見

対等な表現で「つれあい」を使いたい

無難なところで「夫」。話し言葉としては違和感があるのですが、他に適当な言葉がないので、しぶしぶ...

本当は「つれあい」を使いたいのですが、年配者に「年寄りじみている」、若者に「何それ?」と一度ならず言われ、説明するのが面倒で中止しました。「パートナー」も市民権を得ていないので使いづらいですね。

周囲の女性、特に若い人は軽い口調で「ダンナ」と呼びますが、私には抵抗感があります。本来の言葉の意味を失っているのでしょうか、自分が使用人になったようで...

同様に「家内、嫁、奥さん」は「家の中のことをするのが女だ」という役割を感じさせるので使って欲しくない、と夫には伝えていきます。

〔30代・女性〕



## 社会では...

会社や地域の知人、友人との会話の中で、配偶者を何と呼べばいいか迷ったことはありませんか。



## 男性の意見

「嫁さん」と呼ぶが漢字にひっかかる

色々悩んで「嫁さん」に落ちつきました。関西出身なので「嫁はん」ということも多いです。この場合の「嫁」は「嫁・姑」という家族関係を引かずった言葉ではなく、「妻」の関西バージョンを意味するのですが、女へんに家という漢字が漢字なので一瞬使用を考えてしまいます。

「妻」はしゃべり言葉としては言いにくいし、「家内」は男女の役割イメージが強いのので使いたくないし、となると適当な呼び名は少ないですね。

〔30代・男性〕



嫁

## 男性の意見

配偶者は嫌うが「かみさん」を選択

配偶者を知っている人には、名前で呼んでいますが、他は「かみさん」にしています。男女平等を意識したり亭主関白を気取るとかいうことは一切考えず、言いやすい言葉を探した末の形です。

一度だけこれについて配偶者と話をしました。「所帯染みている、かなり違和感がある」と歓迎されませんでした。「嫁さんよりは所帯染みしていない」と主張すると「そんなものかなあ」と、曖昧な返事のまま会話終了。当分これが続きそうです。

〔30代・男性〕



## 女性の意見

### 私のことは雑なのに 人の配偶者には丁寧

私のことは「ウチの」とか「ヨメさん」と偉そうに呼んでいるのに、人の奥さんは「奥さん」と丁寧な扱い。同年代の会話なのにですよ。ちょっと不公平な感じがします。

でも、照れもあるだろうし、身内として扱ってくれている証拠なので、気にならないです。

〔30代・女性〕

## 男性の意見

### 他人の前では照れもあるので、亭主 白ぶって「女房」

結婚して35年たちますが、一貫して「ウチの女房」です。周りの男性の多くがそう呼んでいたの、自然にそうなったように記憶しています。子どもが生まれても変化はありません。「妻、家内」はちょっと照れくさいので、いざ言おうとしても出てきません。

〔60代・男性〕

## 男性の意見

### 新婚3ヵ月。今だに悩んでいる

呼び名を最も意識し、戸惑うのは、公の場や人に配偶者を紹介する時の肩書きです。「彼女」(今もこれをよく使います)という言葉は、結婚前の呼び方のようにも感じます...

彼女は「主人」と言ったり「亭主」と言ったりしているようです。実際にその場に居合わせたことはありませんが...

自分はこう呼ばれていることにムズがゆさを感じ、お互い何と呼べばいいのだろうと話をしたことがありますが、それほど議論にはなりません。

子どもおらず、二人の時や親しい友人の前では、お互いの名前前で呼び合う自分たちにとっては直面した問題として捉えられないような感じです。

〔20代・男性〕



「呼び名」について取材をしたところ、「何でもいい」「考えたことがなかった」という人が大半でした。

ただ中には「嫁、家内、奥さん」は漢字が「女は家庭・男は仕事」というイメージを連想させるので使わない。「主人、旦那」は「男は女より上位」という関係を連想させるので使わないなど、こだわりを発揮している人もいました。

社会では好むと好まざるとに関わらず「夫、妻、主人、女房」などスムーズに伝わる言葉が使われているようです。社会が「呼び名」を意識するにはもう少し時間が必要なのかもしれませんね。

家庭での「呼び名」は何が良くて、何が悪いと決められるものではありません。ただ、お互いを認め合う気持ちが変わったものであれば、良いのではないのでしょうか。

今回の特集のテーマでは、ふだん気にしていない「呼び名」にあえてスポットを当ててみました。男女共同参画に気づく第一歩にしていただけたらと思います。

諸外国では...

Column



岡山在住の外国人に各国の「呼び名」を紹介してもらいました。

中国(上海)編

中国では、結婚しても女性の名字・名前は変わらない。

家庭や身内など、親しい間では、お互いに

「小+名前(ちゃん)と呼ぶ。

第三者に対して、夫は「愛人」「妻」と呼び、妻は、「愛人」「旦那(大丈夫)」と呼び合う。この「愛人」は、最も愛する人という意味で使用され、お互いに愛されている思いで満足感も高い。

【30代・男性】

ケニア編

子どもが生まれるまでは、お互い名前呼び合う。子どもが生まれると、スワヒリ語で、

「ママ(母)+子どもの名前(ちゃんのお母さん)

「パパ(父)+子どもの名前(ちゃんのお父さん)

と呼ぶ。

第三者に紹介する時は、

「ボアナ(夫)+ヤング(私の)」と呼ぶ。

「ピビ(妻)+ヤング(私の)」

【10代・女性】

オーストラリア編

家庭内でも第三者に対しても、いつでも名前(first name)で呼ぶ。

【20代・女性】

マレーシア編

マレーシアはマレー系 55% 中国系 25% インド系その他 20% の多民族国家である。

マレー語で子どもが生まれると(子どもが巣立っても)

「イブ(母)+子どもの名前(ちゃんのお母さん)

「アヤ(父)+子どもの名前(ちゃんのお父さん)

と呼ぶ。

第三者には「スワミ(夫)」「イストリ(妻)」と紹介する。

【20代・女性】

韓国編

韓国では男性も女性も生まれてから一生同じ名字・名前を使用する。一般的にお互いを「ヨボ(日本語に適切な翻訳語はなし)と呼び合う。

子どもが生まれると、

「子どもの名前+オモコ(母)(ちゃんのお母さん)

「子どもの名前+アボジ(父)(ちゃんのお父さん)

と呼ぶ。

第三者には、夫は「うちの者」という意味の「チブサラム」と言う。妻は「夫、主人」という意味の「ナンピョン(男便)」と言う。

【30代・男性】

新 編集委員の紹介



大辻希余子

今年で結婚30年。夫を「だんなさん」と呼んで頼り、人には「主人は」と言っていたか弱い娘も、今や自分が自分の「主人」だとうそぶき、忙しく出歩く「家外」になってしまった。「夫は会社、妻は家庭」と、それぞれの領域を守って平穩に過ごしてきたが、1年前夫が定年退職して私の領域に侵入してきて、嫁姑戦争が始まった。勿論口うるさい姑は私。

夫のおかげで気楽な生活をさせてもらって感謝・感謝と言っていた妻が、急に目覚めたからとDUOの編集委員になって、「男女参画してより良い老後の新たな共同生活を!」といきまいているのに、夫は閉口しているのか、何も言わない。

幼少期「女は勉強ができなくても気立てがよければ良い」と言われ、「女は女らしく」というジェンダーに疑問を感じました。それでも大人の言うことに従順でいた私ですが、大学在学中に個性的な友人達と出会い、その呪縛から解き放たれ、「自分らしく」という価値観を身に付けることができました。

『DUO』では「ジェンダーフリーこそ正義」という一元的な価値観にとらわれず、反対意見も含め多様な考えを紹介し、本音がのぞく紙面を作りたいと期待に胸をふくらませています。



北川有加里



田邊 信男

わが国は少子高齢社会を迎え、従来の社会構造が崩壊し、新たなシステム作りが必要となってきている。この中で、男女がお互いに尊重し、共同して社会生活を歩んで行くことがより必要になってきている。この編集委員を通じて、男性の家事、子育て、介護といった側面での役割、地域や各団体の市民参加によるまちづくり等を読者の皆様に伝えていきたいと思ひます。

今回のテーマであった夫婦の呼び名。その夫婦の呼び名には、様々な思いや歴史があると感じた。しかし、その呼び名でお互いの気持ち理解される呼び名であってほしいと思ひます。

私は女性である自分が大スキ。でも男性はもっとスキ。だから、どちらかが威張ったり虐げられたり対立したりするのは大キライ。だって、どちらも素敵なんだから。

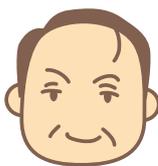
双方の素敵を MIX すれば、どんなに素晴らしい社会になるだろう。個々が輝けば世界はどんなに眩しいだろう。

けど、そのためには補正すべき事がある。リセットすべき事もある。それをみんなで考えて、取り組めればベストだよ。

そんな万感の想いをDUOに託し、これからの二年間、私自身を研磨し、最高の輝きを放てたら...って思っている、原石の私。



土松 雅美



松田 雅郎

平成11年6月男女共同参画社会基本法が制定され、男女共同参画社会の実現は21世紀社会を決定する最重要課題であると位置づけられています。国を変え、地方を変える意識改革を進めるためには、その政策をどのように実行していくかだと思ひます。私は定年後、市民記者と新聞社のモニターを2期勤めました。その経験をいかし再挑戦して、社会に貢献したい一心で「DUO」の編集委員に応募しました。男女共同参画社会の実現に向けての認識を再確認し、自己研磨して期待に添う覚悟です。



# さんかくプラン

## 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する基本計画

この基本計画は、性別にかかわらず市民一人ひとりの個性が輝く「住みよいまち、住みたいまち」の創造を目的として、昨年6月に制定された「岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例」に基づいて、関係の施策を総合的かつ計画的に推進するために、今年の3月に策定しました。策定にあたっては、行政だけでなく市民グループによる検討を始め、パブリックコメント手続きや公聴会での意見・要望を踏まえ、市民協働により策定しました。

### 1. リーディング・プログラム(主要施策)がプランの目玉です。

「さんかくプラン」では、「市民意識・実態調査」などで特に市民ニーズが高く、緊急性の高い課題をリーディング・プログラムに位置付け、重点的に取り組むこととします。

### 2. 推進プランの評価方法

政策の目標と結果をわかりやすい形で示すために、活動量や活動実績を測る指標(活動指標)ではなく、どんな成果が生み出されたかを数値化した指標(成果指標)を設定し、行政の内部評価に止まることなく、市民への公開を前提とした評価を毎年実施します。

### 3. 苦情や相談を市政に反映させる体制づくり

個別・具体的な相談の中に潜在している行政に対するニーズを掘り起こし、市の制度や運営の改善に反映させていく体制をつくります。

### 4. 市民と行政とが協働して男女共同参画を推進していくための体制づくり

男女共同参画社会の形成の促進に関する政策の立案や施策の推進に市民の声を反映するため、必要に応じて公聴会やパブリック・コメント手続きを実施するとともに、定期的に市民意識・実態調査を行います。また、市民の自主的で主体的な活動の輪を広げるため、市民活動の支援事業を行います。

詳しい内容については男女共同参画課ホームページをご覧ください。 [http://www.city.okayama.okayama.jp/shimin/danjo/sankaku\\_plan](http://www.city.okayama.okayama.jp/shimin/danjo/sankaku_plan)

## 岡山市男女共同参画推進週間(6月21日~27日)

6月21日市役所庁舎への懸垂幕の掲揚から始まり、講演会・ワークショップなどを開催し、男女共同参画社会の推進を一週間にわたってアピールしました。

その中でも、4ヶ所の公民館(西大寺・福浜・一宮・御南)の各公民

館)で「真剣 男女しゃべり場」を開催し、参加者には、日ごろ思っていることを存分にしゃべってもらい、一行詩を作成してもらいました。



一行詩の一部をご紹介します。

私へ! 構ってあげられなくてごめんね。

夫よ! 仕事仕事と逃げないで、たまには家庭を振り向いて!!

仕事と家庭の両立って言うけど女性の過労死がいつか来る。

お父さんへ、私に優しくしてくれるくら

い、お母さんにも優しくしてあげてね。

父よ、コードレスの受話器くらいとれるようになって!

孫でもとれる。

夫へ! 私が仕事と家庭の両立ができて、子どもにも

笑顔で接せられるのは、あなたの協力があるから...

いつも、ありがとう。

お互いに役割を作るのやめようよ。

夫婦とも、納得できる家庭作り。

お互いの良さを見つけて認め合おう。



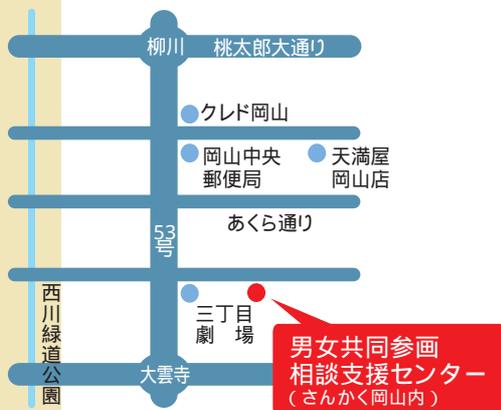
福浜公民館での一行詩を使った絵手紙教室の作品です。

# 相談支援センターのご案内

INFORMATION

## ～ひとりでがまんしないで～

「岡山市男女共同参画社会の形成に関する条例」の完全施行に伴い「さんかく岡山」内に今年4月『男女共同参画相談支援センター』を開設しました。相談件数は月平均50～60件、約半数がDV(ドメスティックバイオレンス:配偶者からの暴力)関係の相談です。DVは身体面のみならず精神面・経済面など複合的に被害を受けていることが多く、本人はもちろん、家族、特に子どもの心にも大きな傷を残します。緊急性の高いケースもあり、深刻な状況が危惧され、相談員は「家庭で安心して安全に暮らせるためには何をすればいいのか?そして元気になり自分を取り戻すにはどうすればいいのか?それぞれが全て異なる状況の中、相談者の気持ちに寄り添い、ベストな支援方法を探しています。DV・セクハラに限らず、どんなケースにも精一杯対応させていただきますので、一人で悩まず気軽に相談してくださいね。」



## 男女共同参画相談支援センター

表町3丁目14番1-201号 アークスクエア表町2階「さんかく岡山」内

男女共同参画相談支援センターは、専門の相談員が、あなたの悩みの解決をお手伝いします。お気軽にご相談ください。

相談ホットライン 086-803-3366

相談受付時間 水～月 午前10時～午後7時30分  
日・祝 午前10時～午後4時30分  
緊急一時保護は24時間対応します。

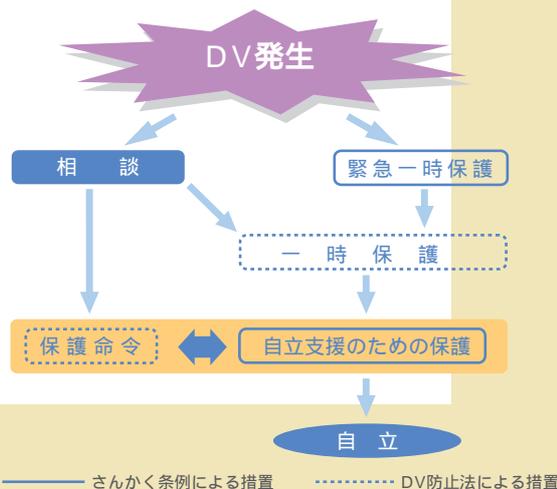
## 24時間いつでも緊急一時保護

配偶者からの暴力(DV)は、主に家庭内という私的な場で行われる暴力であるために顕在化しにくい傾向にありますが、平成12年に実施した市の調査では、女性の11.4%が「身近な人(夫や恋人)から暴力を受けたことがある」と答えています。

岡山市では、DV防止法(注)による一時保護の前後に、24時間対応による緊急一時保護や自立支援のための保護を行うなど実効性あるサポートをしています。(右図)

緊急一時保護の申出は、相談支援センターの相談専用電話(相談ホットライン)をご利用ください。

(注) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律



———さんかく条例による措置      - - - - - DV防止法による措置

## DUO vol.23 編集後記

みなさんはこの情報誌『DUO(デュオ)』の意味をご存じでしょうか? 『DUO(デュオ)』とは、“二重唱・二重奏”の意味です。

この男女共同参画社会の実現をめざす情報誌『DUO(デュオ)』が、のびやかに美しく男女がハーモニーを奏できるように、一人でも多くのみなさんの心に響いていただけたらという願いをこめて・・・これからも新しい編集委員とともに力を合わせ、がんばっていきたくと思っています。ぜひ、ご意見・ご感想をお寄せください。



事務局